

10月27日（土）菖蒲祭講評

「菖蒲祭で学んだこと～生きるとは、文化とは、希望とは～」

会場にお越しく下さいました皆様、本日は早朝から本校菖蒲祭をご観覧くださりありがとうございました。小学生や中学生の皆さんもいるのでしょうか。今度は皆さんが口加高校で学んで、先輩たちと一緒に菖蒲祭を盛り上げてください。口加高校は本当によか学校です。生徒たちは授業も受けて、部活動もして、家では宿題もして、そういった限られた時間の中で、今日のために精一杯の準備をしてまいりました。大変だったろうと思います。

さて、私はこの4月に着任しましたので初めての文化祭、菖蒲祭でした。高校の教員になって30年、いろいろな学校で文化祭を何度も経験してきましたが、今日、うちの生徒たちをみて、いくつか初めて気づいたこと、学んだことがあります。

まず、形態はそれぞれ違っていても「生きるとは表現すること」だということです。表現の媒体は決して文字やことばだけではなく、ステージで歌う、踊る、演じる、楽器を演奏するも表現ですし、絵を描くも表現です。書道、華道、新聞として文字にまとめる、俳句や短歌で表現する。3年生の生活創造コースは思い思いのドレスを制作して表現していました。また、会場準備や後片付け、掃除など、自分の仕事をこなす、働くことも自己表現の一つではないかと思います。表現媒体や手段、方法は違っていても「生きるとは自分らしく自分を表現すること」、ふとそう思いました。

二つ目は「文化とは他者への思い遣りとやさしさである」ということ。朝、体育館に入ったとき、舞台装置、横断幕、照明、装飾、フロアシートなど、ご観覧いただく皆様に楽しい時間を提供したいという皆さんの思いが充満していました。ステージで躍動するみんなにも、日頃の成果を披露する文化部のみんなにも、教室で展示や発表をしたみんなにも、食物バザーを行っていただいた保護者の皆様にも、共通するのは観に来ていただく皆様に楽しんでいただきたいという、他者への思いです。文化とは創造し、制作する過程を自らが楽しむものでもあるでしょうが、一方では、「文化とは他者への思い遣りややさしさ」ではないか、と思った菖蒲祭でした。

あやめが丘に建つ口加高校では、文化祭を菖蒲祭と呼んでいます。菖蒲の花言葉は「希望」です。まさに、今年のテーマが「希望」でした。「きぼう」と口にただけで、明るい光が差し込んでくるようです。では「希望」とは何か。それは「将来に対する期待」や「明るい見通し」のことです。ではどうやったら持てるのか。大きな夢を持つことなのか。では、夢がない人には希望がないのか。いや、そうではなく、「希望」とは「心の持ちよう」だと思います。たとえば「嫌だな」ではなく「楽しそうだな」と思う心。「面倒臭いな」ではなく「面白そうだな」と思う心。「無理、できない」ではなく「やってみよう」と思う心。その前向きで明るい心の持ちようこそが「希望」なのです。希望は、私たちから離れた遠くにあるものではなく、ずっと先の将来にあるのではなく、私たちの心の中にあるということです。

短い準備期間でしたが、前向きで明るい心をもって今日のために準備し、本番を存分に自分たちが楽しみ、観覧していただいた方にも楽しんでいただきました。たくさんの笑顔が溢れた、新しい口加の幕開けにふさわしい菖蒲祭でした。ありがとう。お疲れ様。これからも顔晴ろう！！